

トヨタの「カイゼン」

ートヨタの強さを支えた人々と仕組みー

2006年5月、トヨタ自動車の渡辺捷昭社長は決算発表の席上、純利益・販売台数共に過去最高を更新したと発表した。そしてさらに「成長のための投資をしながら高水準の利益率を目指す」と述べた。

トヨタは既に中期計画を発表していたが、それは海外生産台数を2010年に2003年(259万台)比で2倍に引き上げる意欲的なものだった。北米、欧州、アジアなど世界各地で生産拠点を稼働させ、2006年の世界販売計画台数は850万台と、米ジェネラル・モーターズ(GM)と肩を並べる。「規模・技術力・原価低減に優れた企業が2010年の自動車業界の勢力図を決する」と述べ、名実共に世界トップに王手をかける発言と受け取られた。

豊田 佐吉

ートヨタの遺伝子をつくった人々ー



豊田 佐吉

トヨタのルーツは豊田佐吉にまで、遡ることができる。佐吉は1867(慶応3)年に静岡県湖西市に生まれた。この地方は、二宮尊徳の報徳の教えや日蓮の教えが根強く残っており、佐吉もこうした感化を強く受けて育った。彼は生涯を織機の発明に捧げたが、発明事業の拠り所となる『苦難に屈せず、初志を貫徹する』『国家・社会に貢献する』『労働は人間の義務なり』という彼の信念は、報徳の教えや日蓮の教えから自然と芽生えたものである。

佐吉は織機の発明を通じて一代で財を成し、それが後に豊田喜一郎が自動車事業へ進出する際の資源となる。

佐吉は晩年に、自動車が織機以上に生活に密着し、しかも広く世に役立つと考え、「喜一郎は自動車をつくれ。自動車をつくってお国のために尽くせ」と、新事業への進出を喜一郎に託し、1930(昭和5)年に63歳で亡くなった。

佐吉の言行録は、豊田綱領(次ページ参照)に凝縮されている。豊田綱領は、佐吉が逝去した5年後の1935(昭和10)年に、娘婿の豊田利三郎と長男の豊田喜一郎らの手によって成文化された。今でも豊田自動織機、デンソー、トヨタ車体などのトヨタ系11社の会社でも、そのまま、もしくは時代、環境、会社の特性に合わせてモディファイされて、社是や経営理念として採用されている。特に、『研究と創造』と『協力一致』のキーワードは、どの会社でも共通で強調されている。

このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール山根 節が、公表資料によってクラス討議の資料のために作成した。

(協力:M25 杉山大輔 2006年9月)